

様式第3号

会 議 録

| | | | |
|------------------------|-------|---|------------|
| 会 議 名 (審 議 会 等 名) | | 平成30年度 第5回 川西市社会教育委員の会 | |
| 事 務 局 (担 当 課) | | 教育推進部 社会教育課 (内線 3422) | |
| 開 催 日 時 | | 平成31年1月24日(木) 10時00分～12時00分 | |
| 開 催 場 所 | | 川西市役所 202会議室 | |
| 出 席 者 | 委 員 | 野崎議長、田中委員、米田委員、細見委員、玉邑委員、丸山委員 計 6名 | |
| | そ の 他 | | |
| | 事 務 局 | 石田教育長、若生教育推進部長、中西教育推進部副部長、大屋敷社会教育課長、田中社会教育課主幹、藤井川西公民館長、村山中央図書館長、山中社会教育課主事 | |
| 傍聴の可否 | | <input checked="" type="checkbox"/> ・不可・一部不可 | 傍聴者数 1名 |
| 傍聴不可・一部不可の場合は、その理由 | | | |
| 会 議 次 第 | | 1. 開会 教育長あいさつ 2. 前回の会議録の承認 3. 報告事項 (1) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会について (2) 各協議会等の会議報告について (3) その他 4. 議題 (1)平成30年度年間研究テーマについて 「公民館の役割について ～いま、何が求められているのか～」 5. その他 | |
| 会議結果 | | 別紙のとおり | |

審 議 経 過

NO.1

| | |
|-----|---|
| 議長 | <p>本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。ただいまから、平成30年度第5回川西市社会教育委員の会を開会いたします。はじめに、本日の委員の出欠についてです。住友委員、川口委員、塩谷委員、黒山委員より欠席の連絡がありました。なお、米田委員より、所用のため遅参の申し出がありました。それでは開会にあたり教育委員会からあいさつをお願いします。</p> |
| 教育長 | <p>(挨拶)</p> |
| 議長 | <p>つぎは2の前の会議録の承認についてです。事務局説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(説明)</p> |
| 議長 | <p>ありがとうございました。今のご説明につきまして何かご質問ございませんでしょうか。</p> |
| G委員 | <p>すみません。どこを修正されたのでしょうか。</p> |
| 議長 | <p>修正箇所につきましてご説明お願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>(説明)</p> |
| 議長 | <p>つぎに3の報告事項の各協議会の会議報告に入ります。各協議会で前回の社会教育委員の会より今日までに開催された委員会や協議会があり、報告しておくべきことがありましたら報告をお願いします。まず、事務局から説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>(1) 阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会 日時 : 平成31年1月21日(月) 場所 : 伊丹市立総合教育センター 内容 : 講演会 「学校・家庭・地域の連携・協働を考える ~『みんながつくる みんなの学校』って?~」 講師 : 大阪市大空小学校初代校長 木村泰子 氏 その他 : 阪神地区社会教育主管者会合同研修会も兼ねた研修として実施 参加者は全体で約40名</p> |
| 議長 | <p>本市からも5名の社会教育委員の方々にご出席いただきました。ご出席いただきました委員のみなさん、ご報告よろしくをお願いします。</p> |
| B委員 | <p>木村先生から教育現場のしごらみ、そういうものをお話しいただきました。きっとそのお話が全てではなく、オブラートに包んでおられたんだろうと思いますが、やはりまだまだ子どもを主人公にできていない現場があると、教育委</p> |

| | |
|-----|--|
| D委員 | <p>員会の方も多く来られていたようですが、耳の痛いお話しだったのでないかと聞いていました。私は大空小学校の映画も見ていたのですが、講演会のなかでも映画の一部が上映され、映画に出てくるかずきという男の子について、お話しいただきました。真剣に向き合って、みんなが関わっていたからこそ、いい結果が出ていくのだと思いました。</p> <p>また木村先生が学校の先生に向けてのワークショップをされているお話も伺いました。そのかずきという男の子が3日間ご飯を食べることができず、4日目にととう我慢できなくなって、コンビニでおにぎりを盗って食べてしまったと学校に報告に来たというお話から、先生だったらどう、かずきへ言葉をかけますかというワークショップについてのお話でしたが、やはり先生方は指導というか、どんなにお腹が空いていてもやっぱり盗ってはいけないという部分をみなさん言われるということでした。実際の状況では、かずきがおにぎりを食べているところを見た地域のボランティアの方が、かずきが学校に来る前におにぎりを盗らないようにするために、自分達はどうかしたらいいんだらうと相談に来られたということでした。大空小学校の先生方も指導を考えていたので、地域の方の言葉を受け、かずきが来た時に何も言ってあげられなかったというお話でした。私も幼稚園で勤めていたこともあるので、人に教えたり子ども達に良かれと思って言ってあげるとか、してあげようとするのがついつい出るんです。今でも子育て支援の場でもお母さん達のために何か言ってあげようとか、力になってあげようみたいなおそれたことを思って、声を掛けがちですが、かずきがどうしたいのかを聞いてあげることが一番大事であり、自分でどうしたら良いのか考える場を作ってあげることが大事だと思いました。本当に地域の方も私達の子育て支援の場でもそうですけども、つい良かれと思って手を出しがちですが、前回、県の研究大会の能島さんのお話の中でも、何もしないことが大事というお話がありました。見守ることで、子ども達は自分で考えるということです。これから2020年に変わっていきますよね。一方的に教えられてするのではなくて、自分で考えていく方に転換していかないと、今まで大人が教えて子どもは指示待ちで、指示されたことはできるけれど、自分で考えるということがなかなか難しかったのが、これからはやっぱりみんなが自分で考えて、行動できるようにしていかないといけないと、講演会を聞き、更に思いました。</p> <p>非常に良い講演を聞かせていただいたなと思っています。先程も出ていましたが、安心して学べる学校というのを1つの大きな目標として、取り組んでおられたというお話でしたが、居場所というのは非常に大事なもので、特に虐待、不登校、いじめなど、大空小学校は問題のある子どもが多い学校でした。ここまではいかないのですが、私も地域の活動をさせてもらっている中で、そういった子ども達の相談も受けたりします。なんで不登校になるかという、学校に居場所が無いからだ先生はおっしゃっていましたが、その居場所をどうやって、どこで作っていくかを考えるとやはり、地域が関わりを深めていかないといけないなと感じました。だからこそ地域と連携した学校づくりが大事だとおっしゃっていましたが、非常に難しいところですが、私も子どもの居場所</p> |
|-----|--|

審 議 経 過

NO. 3

| | |
|---------------------|--|
| 議長 | <p>というのを大事にしてあげることが大切かなと思っています。これからも教育面でも地域の活動でも、少しでも関わりができればいいというご講演でした。</p> <p>ありがとうございました。(2)各協議会等の会議報告につきまして、ご出席の委員の方でこの間、協議会等に出席されたものがありましたらご報告お願いします。(3)その他についても、ございませんか。では、次第を進めさせていただきます。(4)平成30年度年間研究テーマについて資料2を配付していただいております。この件について、事務局から説明をお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>お手元の資料2をご覧ください。昨年3月2日に中央教育審議会総会において文部科学大臣より人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について諮問があり、同年12月21日に中央教育審議会より別紙のとおり答申が出されました。資料の最終ページに本答申の概要がまとめられていますのでご覧ください。内容は2部構成で、第1部で今後の地域における社会教育の在り方を、第2部で今後の社会教育施設の在り方について述べられています。つぎに、21頁をご覧ください。いま、委員のみなさまにご検討いただいている、今後の公民館に求められる役割としては、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割、地域の防災拠点としての役割を果たすことを目指すことなどが望まれるとまとめられています。つきましては本資料も参考にさせていただきながら、本年度、野崎議長、泉川西南公民館長のお話を聞いていただいたうえで、みなさまが考えられた「川西市における公民館の役割」についてご意見をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。</p> |
| 議長 | <p>ありがとうございました。ただいま事務局からご説明がありました、国の資料についても参考にしながら今年度の研究テーマを深めていきたいと思っております。公民館の役割について、今、何が求められているのかについて委員のみなさんのお考えについて、フリーディスカッションを進めたいと思っております。それでは委員さんのご意見を伺いたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。</p> |
| 事務局 | <p>ご検討いただく前に、本日所用のため欠席されている塩谷委員より、ご自身が考えられた公民館の役割についてのご意見をお預りしておりますので、代読させていただきます。なお、本資料のコピーについては、みなさまのお手元へ配付しております。</p> |
| F委員 (欠席のため事務局代読) | <p>公民館って、そもそも何となると、地域の方がいつでも誰でも通えて、自分の能力を伸ばせたり、また交流の場として利用できる場所であると思うのですが、実際のところはどうでしょう。公民館活動に熱心な方もおられる一方、地域の方の中には、公民館は、少し言い過ぎかもしれませんが、市役所まで行かなくても行政サービスを受けられる施設としか思っておられない方もいらっしゃると思います。10年ほど前の私も実際そうでした。核家族化、高齢世帯の増加、また近所付き合いも薄くなり、ますます孤独になりがちな社会といわれています。普段、話す相手もおらず、自宅とスーパーの往復、テレビだけが頼</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>りという方もおられると思います。ちょっと立ち寄って、一息つけて、ちょっとした会話ができる地域の方がほっとするような場所が必要なのかもしれません。また地域の中からボランティアで教育支援ができるような方を募り、児童や生徒が安心して過ごせる場所にもなればと願いは多いです。そんな中、例えば小さなお子さんがいる親御さんがリフレッシュも兼ねて講座中に、お子さんを預かるボランティアの方がいてくださるうえで、手芸や流行りのヨガができる講座などがあれば参加してみようかなという方もいらっしゃるかもしれません。その学びの場から地域の住民同士の繋がりができていく、その過程はすばらしいことだと思います。その機会をいかに作り上げていくか、気になる講座はあるものの、なかには1人でいくことに抵抗を感じる方もいらっしゃいます。公民館はもっと身近で気軽に入れる場所だと分かってもらえる試みも必要だと思います。つまり、公民館の役割は、学びの場であるとともに繋がる場であると思います。この地域のつながりを大事にし、突然起こり得る自然災害に対しても、対処できるような絆をつなげていける場所にしていけたら、とりたいところですが、実際は自治会や子ども会でさえ関わろうとせず、便利な世の中になった故なのか、つながらなくても生きていける、つながりたくない人など考え方が人それぞれあり、つながることの難しさを感じることがあります。しかし、このあたりは震災も経験し防災に関しては非常に気になるところだと思うので、講座の1つとして取り上げていただくなどし、少しでも多くの地域の方が1つのことに向き合える時間がもて、いかにつながることが重要かと意識できる機会が持てればと願っています。</p> |
| 議長 | <p>それでは塩谷委員の意見も踏まえ、他の委員の方々のご意見もいただきたいと思います。G委員いかがでしょうか。</p> |
| G委員 | <p>前回の議事録などを読ませていただき、感じたところを申し上げます。川西市の公民館というのは当然みなさんご存知の通り、中央図書館の分館的機能を有する地域の生涯学習推進の拠点であり、社会教育施設であるということです。それ以外に、市役所の支所的な機能を有する行政センター、また地域によってはコミュニティの拠点施設、並びに防災の拠点施設という機能をもっています。このような複合的な機能を持った施設というのは、他市には無い川西市の特色でもあり、利用者も多く、地域の拠点施設として川西市の誇るべき面ではないかと考えております。しかし、前回も川西南公民館長に実情をご説明いただいたところですが、やはり予算と人的配置に対する問題が1番大きな課題であると感じます。予算については、川西市は中央北地区の再開発や病院設置など大きな事業を抱えておりますし、少子高齢化に伴い年々増加する民生費があるなど、非常に財政的に厳しい状況に陥っていることから、社会教育施設への予算配分が年々削られている状況です。これは別に教育委員会が悪い、担当が悪いというわけではなく、川西市全体の流れの中で、公民館に配分される予算も年々シビアになっているということです。公民館の人的配置の面では嘱託職員、再任用職員、臨時職員など非常勤の職員での構成がほとんどで、そういう方々の力で運営されているのが実態であると思います。そういう中でも、今</p> |

まで川西市の公民館ならびに行政センターが果たしてきた役割を何とか維持していこうと、現場のみなさんは非常に努力しておられると認識しています。そういう現状や問題点がある中で、川西の教育の方針で示されている、講座の充実、登録グループの育成指導について、どんどん発展させるというようなことは、難しいのではないかと考えています。

では、どうしたらいいかということですが、川西南公民館長がおっしゃってられました和顔愛語ですね。来られた方に笑顔で接するというようなソフト面の充実をすすめることで、地域住民の公民館への親しみが育まれるんじゃないかと思えます。これは職員1人1人の自覚が必要ですが、そういうことが大事だと思います。私も公民館の職員を経験しましたが、やはり公民館というのは少人数職場です。だいたい1日3人ぐらいがローテーションで勤務しているところですが、そういう少人数職場であるがゆえに、個々の人間関係といえますか、協力して和顔愛語を実践していこうというような職場の雰囲気が必要です。それには館長のリーダーシップやマネジメント力が大きいと思っています。それぞれの館がいろいろな問題を抱えているとも聞きます。館長がリーダーシップをとって職場をまとめ、地域との連携、登録グループさんとの調整を中心となって進めていかなければならないと思います。やはり川西南公民館長が言われていたように、こういうような状況がどんどん続くのであれば、何を捨てて何を継続させるのかというようなことが大事です。

それで、前々回の教育長のご挨拶、研修を受けられたご報告の中で、お叱りを受けるかもしれませんという前置きをおかれたうえで公民館はいま現在、貸し館業務が中心となっている現状ですから直営である必要は無いんじゃないかと、極論では思っております。というような発言もありましたが、これは現場でがんばっている職員からいえばちょっといかなかなという感じも思いました。

もう1点、地域との連携、学校との連携については、公民館はもっと情報発信を積極的にやる必要があるのかなと思います。ホームページもなかなか更新がされず、出たらそのままというような状況です。現場からすればそういう情報に精通した職員がいない、時間の確保が難しいということかもしれません。やっぱりプラス面をどんどん発信していけたらいいんじゃないかと思えます。別にそれは公民館だけではなく、登録グループの活動のPRもそうです。登録グループもどんどん高齢化して行って、人数も減っているという状況があると思うのですが、PRも兼ねて登録グループさんの活動紹介をやっていけたらどうかと思います。登録グループの中では音楽活動をされているグループが福祉施設に慰問に行かれるなどの活動もされています。それと人的なパワー不足においてはやはり、地域のコミュニティを中心とした方々に支援を求めることが、これからは必要じゃないかと思っています。なかなか難しいかもしれませんが、有償ボランティア制度のようなものも考えていく必要があると思います。

議長

ありがとうございました。歴史と伝統があるうえで、今日があるということをご理解いただいたかと思えます。それを行革に含めて、今後どういったかた

| | |
|------|---|
| I 委員 | <p>ちで、更に活かしていくのかというところでご意見をいただければと思います。I 委員いかがですか。</p> <p>いろいろとお話を聞かせていただきました。子どもの居場所ということであれば、当然、学校、家庭がそうあるべきです。地域での居場所を考えたときに、子ども達がどれほど公民館を利用しているのかということです。中学校に入ると部活動がありますので、部活が終わった頃には公民館はもう閉まっています、土日もやっていないというところから、つつい疎遠になるのですが、小学生であれば、3時過ぎには授業が終わり、帰りに公民館へ寄って図書室で本読んだり勉強したりすることもあるだろうと思います。また、トライやるウィーク中に公民館を訪問した時は、若いお母さんが赤ちゃんを連れて来られて、赤ちゃんの講座に出られるなど、やはりいろいろな居場所になっていると思います。</p> <p>ただ、いま学校の方は部活動のあり方の方針というものが出ていまして、この4月から土日のどちらかを必ず休む、また平日も必ず1日休む、つまり週2日以上はノー部活デーにするという話です。やはり子ども達の生活にゆとりも当然必要ですし、健康面の管理も必要です。また教師の働き方改革の問題もあります。ただ、G委員もおっしゃったように結局人とお金の問題があり、公民館に小中学生を受け入れるだけの職員がいるのか、そういう体制があるのかが問題だと思います。いまでも、何回も言いましたが例えば、夏休みなどの休業中の部活動を地域に移行していくといいますが、小学校区、中学校区だけではなく、川西市全体の地域の中で、スポーツしたいとか芸術活動をしたいという子ども達を受け入れてもらえるような場所、あるいは指導者を作っていくといけないということがあります。ただ、それについても結局は、人とお金です。ただし小学校で例えば、休みの日に私の住んでいる地区のグラウンドを見ると、野球チームが練習してまして、お父さんかなと思われるコーチが10人くらい指導しておられる、お母さん達も当番で3人くらいついておられる。つまり小学校は保護者中心に子ども達の指導をしているということです。ただ、それが中学校に入ったら全て、学校の部活でお願いしますとなっています。ところが学校の方にも限界が来ているので、持続可能な体制を作っていくと同時に、地域に受け皿を作っていくといけないと思いますが、問題はみんな忙しいということです。働いている方も5時に仕事が終わってすぐ帰れるわけではなく、残業などで遅くなるわけですから、やっぱり社会体制全体が、働き方改革ですね、そういうことを含めて大人も子どもに関われるような余裕や時間を作っていくなければいけません。</p> <p>またもう1つが、部活の顧問が職業として成り立つような体制です。これもお金がかかることですので、難しいとは思いますが。ただ、そういうふうな方向で子ども達を受け入れる場所を、地域の中にどうやって作っていくかが、課題だと思っています。現実的に、もし可能であるならば公民館でやっておられる講座の中で、夏休みに小・中学生を受け入れてもらえる講座があるのであれば、例えばダンスをやりたい子達、生物とか科学的なことに興味を持っている子達もおりますので、呼びかけていただければありがたいなと思っております。</p> |
|------|---|

| | |
|-----|---|
| 議長 | <p>す。</p> <p>ありがとうございました。I委員がおっしゃったように、かつて社会教育に学校外教育のフォローとしての税が入ったのは平成13年、ちょうど学校5日制が入った時に子どもの居場所事業、週末もしくは長期休業中の居場所づくりということで、地域子ども教室事業があるなど、予算がついた時期ですね。そういった意味でいまI委員がおっしゃった、働き方改革、学校のスリム化という話が出てくるとまた社会教育をフォローする風が入ってくることもあるかもしれません。前に明石市のお話をさせていただいたと思いますが、学校体育をいかに社会体育に取り込んでいくかということで、明石市の場合はコミュニティセンターというのを中学校の中に作ったので、日常的に公民館が学校の中にあるという状態で、スポーツ指導員も含めて、仕掛けとしては成功していると思っています。本市の場合は公民館が本館と地区館が独立して業務を積み重ねてこられて、やっぱり連携という部分が少し弱かったのかなという印象は持っているのですが、委員のみなさまがおっしゃったようにこれからは学校の部分も含めて、どう学習との融合の部分で、もしくは教師の働き方改革の部分で関わっていけるのかが1つの議論のテーマだと思います。D委員いかがですか。</p> |
| D委員 | <p>今お話されたように、やはり何をするにも予算です。また、公民館として本当に何が問題なのかが、分からないところもあります。川西市は公民館が10館もあり、多くの方から立派な公民館と聞きますが、公民館がこれに1番困っているということが分かっています。以前の社会教育委員の会では「気楽に行ける公民館」をテーマに取り組んだことがありますが、いまお話されているように居場所づくりも、公民館活動についても、PRについても、以前と比べると最近の公民館のPRは少し進んでいるかなと思いますが、市民にはまだまだ公民館はなにをしているのか分からない部分がありますし、行きづらい館のように受け止めている市民もいらっしゃるの確かです。その辺、公民館の本当の課題は何なのか考えていましたが、分かっています。公民館長に聞いてみましたが、ここが1番困っているところを、なかなか館長さんからも聞けないです。</p> |
| 議長 | <p>施設の場合は利用の対象者をどこに絞るかということでしょうね。ただ、公民館の場合は利用者の幅が広く、0歳から高齢者まで利用されていますので、そこをどう焦点化していくか、選択集中の部分で、これからの公民館はどこにターゲットを絞って行政サービスを提供していくかということだと思います。G委員どう思われますか。</p> |
| G委員 | <p>情報不足というのもあるかもしれません。自分達で努力してあまり地域のお世話にならないように、がんばっていかないといけないというような想いでやってきたのも事実です。もっと素直といいますか、こんなところに困っているということをコミュニティの会長に相談、お願いをして支援をしていただくという関係が大事だと思います。例えば、施設内の環境整備です。敷地の広い公</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>民館であれば春から夏の時期に、どんどん雑草が生えるわけです。1週間から10日したら醜くなりますし、来館者に気持ちよく来てもらおうと一生懸命作業していますが、そういう施設面の花壇整備を老人会に有料ボランティアというかたちで、やっていただくなど私ができなかった反省も含めて言っています。</p> <p>また、子ども達の関係ということでI委員がお話されましたが、夏休みに各公民館で子ども向けとして、茶道協会に支援をいただき子ども茶道教室を10回講座でお願いしたり、登録グループの指導者さんをお願いして親子でパン作り教室をしたり、子ども科学教室などを館ごとに工夫してやっておられます。もう1つ学校との連携からいえばトライやるウィークですね。全学校を受け入れているわけではないですが、私がいた時は子ども達に樹木の剪定、花壇の整備、障子の張替えなど、そういうような協力をさせていただきました。また、小学校3年生の社会学習でも、公民館はどんな働きをしているか見学に来られるなど、北陵小学校の先生から協力の依頼があって、来ていただいたことがあります。こちらから投げかけることも必要ですが、学校サイドからもうこういうことできませんかという動きがあればと思います。学校だけではなく、留守家庭児童育成クラブもそうです。予算のかからないような協力体制をもっと密にできればなと感じています。</p> |
| 議長 | <p>ありがとうございます。C委員、公民館のあり方につきましてご意見いかがでしょうか。</p> |
| C委員 | <p>前回と前前回、公民館のお話をいただきまして、いろいろなことを考える中で、やはり今の公民館というのはいろいろな形があると思いますが、続けていくべきだというのが私の考えの中にはあります。ただ、小学校区によってかなり体力が違うというのが事実ですし、そういうところは地域性をあげてやっていけないといけないと思います。この間もお話がありましたが、川西市の公民館は地域行政の拠点になっている部分も兼ね揃えている、その部分も必要でしょうし、元々あった学習の場の役割について、貸し出し部屋になっている部分もあるかもしれませんが、それも大事だと思います。今I委員がおっしゃったように先生方の働き方改革があるということもあって、うちのコミュニティでもなにか、お手伝いしていかないといけないと話が出ています。いま北陵の場合は公民館にコミュニティ室という部屋があるので、その場所を利用して子ども達に呼び掛けてしめ縄づくりなどいろいろしています。それから世代間交流をしていますので、大人の方も一緒に来られてという形で、伝承的なものを指導するなど、そういった面でいくといろいろな部分で地域との関わりはできていると思います。いままでは学校とコミュニティと公民館を交えてお話する機会はあまり無かったのですが、お互いいろいろな話をしながらもっと利用できるかたちになればいいんじゃないかというのが、実際自分が関わっているコミュニティ、公民館の話です。地域の協力がなくなっていくと、地域もだんだん崩壊していくというか、下がっていくという想いがありますので、地域の協力というのはいつの時代も必要であると思います。</p> |

| | |
|-----|---|
| 議長 | ありがとうございました。B委員いかがですか。 |
| B委員 | <p>公民館のどこをターゲットにするかというお話ですが、私は幼児もしくは中学生の子達に関わっていることが多いので、その人達がもっともっと公民館に繋がってほしいなという想いがありますが、1番利用しやすい方となると年配の方をターゲットにする方がいいと迷っています。ただ先程、C委員も言っておられましたが、公民館は大人の方と子ども達が繋がって、一緒にできるという場でもある、そこも大事と思うとターゲットが絞りにくい施設だと思いました。</p> <p>以前教育長がお話された時は欠席しており、直接はお話を聞けなかったのですが、前の会議録を読んで、公民館の運営は直営でなくてもいいのではと私も思いました。川西南中学校は隣に公民館があるのに部活終わった時間に行こうと思っても、公民館も閉まっているので、なかなか利用できません。夕方も開いていたら、部活終わった後にみんなで宿題して帰ったりできるのかなと思います。ただ、そういう支援は学校でしてもいいのかなとも思います。緑台中学校は、学ボラといって地域の方が勉強を見るような環境もできています。それがもっと広がってもいいのかなと感じます。</p> <p>有償ボランティアのお話ですが、私は川西南中学校で、中学生にも読み聞かせをしています。活動されているお母さん方は無償で来ていますが、生徒からの反応や自分が読んだ達成感にすごくパワーをもらっています。してあげているというよりも貰うものも大きいというそういう気持ちで関わっていただいている方が多くいらっしゃいます。少し公民館から話がはずれますが、学校側からもっとウエルカムな対応をしていただければ、ちょっと行って見て、楽しかったからもっと行こうと、子どもの支援という場合は無償であっても、もっと繋がっていけるんじゃないかと思います。学校で居場所ができれば、公民館は年配の方をターゲットにして運営ができると思いました。</p> |
| 議長 | <p>ありがとうございました。みなさまから、ご意見をいただきました。以前教育長よりいただいたお話の中で寺中構想のお話がありましたが、私個人的に思うのは混沌としたときこそ、もう一度ベースに戻るといいますか、そもそも論に戻るとというのが1つの方針を示すうえでのビジョンかと思います。教育長のお話の中で荒廃した日本の国をどう立て直していくのかというところから公民館がスタートしたというものがありませんが、現時点で見直してみると、国の中教審の方針でもありませんが、地域コミュニティの基盤の弱さといえますか、もう一度地域を作り直すというところが1つ柱になっているかと思えます。あと、1つ指針として、独居死をいかに少なくするかが1つの指針だというふうに言われたことがあります。要はそのコミュニティがしっかりしたところだと独居死というものは、あり得ないということです。1人暮らしの高齢者の方が家の中で亡くなっていたのが、しばらくしてから見つかるということです。そういったものを無くすということ、もう1つはここに住んでよかったですと思えること、いろいろな人との関わりのなかで1人暮らしをしていても大丈夫だと思えるまちがこれからのまちづくりの指針になってくと思います。これ</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>から多くの方が亡くなる時代に入ってきます。そういった時に、公民館が1つ拠点として、1つの仕組みの中にあって、そういった方をいかにケアし、次の世代に住み続けたいまちを、想いを繋げていくかが、教育長のお話を聞いて大事だと思いました。振り返ってみれば、公民館の原点ってそこなのかなと、自分の住んでいるところを離れて東京にってしまうのではなく、自分が住んでいるまちを良くしていく、そこで死んでいく、そして世代を繋げていくという、そういった想いを教育長のお話を聞いて思いました。よろしければ教育長お話をいただけますか。</p> |
| <p>教育長</p> | <p>実は私も非常に悩んでおります。公民館の在り方というか、公民館の役割みたいなものは決してなくなると思いますし、もっと大切なものになってくると思っています。先程、I委員からのご意見がありましたが、学校をもっと地域に開放していかなければならないということで、来年度は学校運営協議会を作り、さらに踏み込みアフタースクールであるとか、ゲストティーチャーを学校がコーディネートするのではなく、地域の方が窓口になって運営していくという考え方が求められている、そういった中で公民館の役割はますます大きくなっていくのだろうと思っています。ただ一方で、先程もありましたが、重要性はありながらも、お金や人材が無い状況が更に厳しくなってくる状況で本当にこの体制のままでいけるのかということは熟考したほうが良いと思います。要は誰がコーディネートをして公民館を運営するのか、つまり行政が直接コーディネートして運営していく時代でもつのかどうか、議長がおっしゃられたように、地域コミュニティの基盤を強化するための拠点として公民館を使っていくという考え方もあるとするならば、直営としてやるのではなく、その拠点として公民館を育てていく、行政はそれを支援、アシストしていくというような形の方が、これからの先があり得るのではないかと考えています。ただですね、非常に迷っています。うまいこと回るのかどうか、それだけコミュニティに乗っかる形になってやっていけるのかどうかは大きな課題ですし、昨今の直営でやらずに民に任せていく流れが本当に明るい社会に繋がっていくのかについて、私は一定危惧感を持っておかないといけないのではないかと考えています。そのあたりが、私どもも迷っているところです。</p> |
| <p>議長</p> | <p>ご意見ありがとうございました。まだ若干時間がございますので、フリーディスカッションを続けたいと思います。</p> |
| <p>I委員</p> | <p>先程、G委員がおっしゃったように、もう既に公民館で小・中学生対象の講座をされているというのは、各公民館の講座の冊子を見て知っていますが、ただその参加状況について、どれくらいの小・中学生が参加しているのかを現場の教師はほとんど知らないと思います。本当にできることをやっていくしかないと思うので、無理はできないと思いますが、例えば小・中学生に夏休みこういう講座がありますという学校にチラシをいただければ、それを教室に掲示し、担任からこんな講座があるから興味がある子は申込みなさいよと声をかけることができます。これだけで興味がある子は行ってみようかなとならないかと思</p> |

審 議 経 過

NO. 11

| | |
|-----|--|
| 議長 | <p>ます。そういう働きかけが無い状況の中で、いま子ども達はどうやって講座を知って、参加しているのか、私も把握できていないのですが、もし子どもと公民館を繋げていくのであれば、PRは必要だと思います。</p> <p>ありがとうございます。他の委員の方はご意見いかがでしょうか。</p> |
| D委員 | <p>いま、公民館活動で公民館へ顔を出させてもっています。各公民館が年間を通していろいろな催し、講座をやっていることは知っていますが、もう少し市民が分かるようなPR方法といいますが、公民館だけではなく、地域住民も巻き込んでできたらと思います。この間の伊丹市での研修会の講演のお話でも管理職が変わったら学校が変わるというのではいけないと言われていましたが、公民館も館長が変わられたら雰囲気が変わります。そういうことで、特にPRの部分についてはもう少し考えていける余地があるのではないかと思います。地域の行政部分というか、公民館だけをするのではなく、地域がもっと参加するようにしていくことが活性化にもなるでしょうし、地域が気楽にいける公民館に繋がっていくと考えます。本当の意味でのコミュニティができてきているコミュニティがあればいいと思いますが、いまの時点ではできていないので、公民館活動も繋がりが薄くなっていると感じています。少しでも公民館講座をPRして市民が分かる、学校が分かるPR方法を考えていけたらもっと繋がれると思います。</p> |
| 議長 | <p>公民館の広報は、自治会の回覧板などに入れたりされていますか。</p> |
| C委員 | <p>北陵地区は全てではないですが、子どもの関わる講座はだいたい入っています。</p> |
| D委員 | <p>多田地区はほとんど入ってないです。公民館活動のチラシは来ていません。</p> |
| G委員 | <p>講座でしたら前期、後期でそれぞれ講座案内の冊子を公民館の窓口に設置しています。また、市の広報誌に公民館の講座について掲載する欄があり、各公民館でPRはしています。だいたい、この2つを見て申込みがある感じです。D委員がおっしゃられることはよく分かります。ただ、例えば歴史講座や現代文学など、それぞれの公民館で人気のある講座についてはあまり宣伝をしすぎるとせっかくの申し込みを断らないといけなくなります。人権教育などのテーマについて講座については、募集してもほとんど申し込みが無いということがあります。いまの川西市の公民館で講座を実施して人が来ず、がらがらというのはあんまり無いです。人権教育など、参加者が少ない場合は地域の人権のコミュニティの組織の方や、PTAの方々と共催で開催していると思えますが、あまり宣伝しすぎて断ってばかりというのもいけないと思います。</p> |
| C委員 | <p>この間北陵公民館では落語家を招いての人権教育をされていて、人気がありました。実施する方の工夫というものがあると思うので、PRの仕方も大切だと</p> |

審 議 経 過

NO. 12

| | |
|-----|--|
| | <p>思います。</p> |
| D委員 | <p>公民館のほうから、申込みが少ないので、ちょっと来てもらえないかと連絡を受けて、参加させていただく講座もあります。</p> |
| 議長 | <p>公民館長来られています。広報については苦労されていると思いますが、そのあたり情報提供いただけることがありましたら、お願いします。</p> |
| 事務局 | <p>G委員がおっしゃられた通り、毎月必ず広報誌に講座の案内を掲載しています。各公民館の案内チラシを実施館では置きますが、他の公民館までは置いていません。理由は他の地域からはあまり来られないだろうということと、他の地域の市民を引っ張ってくるのはあんまりよくないのではという部分が多少あるのかと思います。学校への情報提供ですが、全公民館がしているのかは不明ですが、川西公民館では近くの学校、校区の学校には全部チラシを出しています。ですので、子ども茶道などの事業の参加人数が数人で、子ども達が少なくて困ったという話はあまり聞いたことはないです。</p> |
| I委員 | <p>小学生の方が多いですか。</p> |
| 事務局 | <p>小学生が多いです。</p> |
| I委員 | <p>中学生も来ていますか。</p> |
| 事務局 | <p>中学生も来られています。学校からも全生徒分のチラシを持ってきて下さいと言われて、何百枚持っていったこともあります。他の館がどうされているかは、分からないのですが、チラシ1枚をクラスに貼りますと言っただければありがたいんですが、全学校に配付しようとする、公民館だけではなく他の部署からも案内チラシが来るので、多くなりすぎると困るので控えてくださいと言われる時もあり、対応が難しいところです。他の公民館については、学校には一応声かけてほしいと言っています。</p> |
| 議長 | <p>ありがとうございます。本当に幅広く、なんでもやらないといけないというのが公民館の宿命としてありますね。特に川西市の場合は公民館行政がしっかり運営されてきたという経緯があることが見えます。ただ、他の市町でいう子育て支援センターや学習センターが公民館の中にあり、子育て世帯のお母さんが来て昼間はにぎわうという集客に繋がるシステムがあればさらに集客に繋がるとは思いますが、川西市の場合はサークルさんしかないですね。</p> |
| B委員 | <p>児童員さんが、週1回でプレイルームをされています。</p> |
| 議長 | <p>常設の支援センターというのは、公民館には無いですね。これがあると、集客力は強いと思います。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>G委員</p> | <p>子育て支援の担当所管が月に1回か2回、貸し館という形で実施されています。そこで幼児を含めて、お母さん方が集まられて、活動をされています。公民館の講座としてもそういう子育て世帯の親子に関する講座を5回シリーズでやっています。子ども対象の登録グループの活動でも、いまヒップホップが子ども達に人気があり、私がいた公民館でも3つほどのグループに小学校の低学年を中心とした子ども達が来られて、活動されています。先程の講座の件の補足になりますが、やはり平日開催ですから、働いておられる方が参加というのは難しいので、参加される方が高齢者、専業主婦の方になってきます。また積極的に講座に参加してみよう、勉強しようという意欲を持って来られる方はある程度限定されますので、利用者が限定されるというところがあります。</p> |
| <p>議長</p> | <p>加古川市でのお話ですが、加古川市も支援センターが外にあって子育てサークルには来たくないというお母さんが子育てセンターには行くという状況があるようです。つまり公民館の親子学級などは時間の制限など、結構制約があるとおっしゃっていて、いつでも行けて、いつでも帰ってこられる、少し休憩できて、スタッフさんがいてくれるという方がいいなど、来られる層が違うらしいです。いまG委員がおっしゃっている公民館に来られる方はわりとかっちりしているものだと思います。常設の支援センターは行きたいときに、ふらっと行けます。本学も子育てセンターがあります。当然三田市の方も来られますが、少し地域から距離をおきたいという方も来られます。いわゆる公園デビューがちょっと苦手という方です。そういう意味では幅広く包括できるわけです。ですので、いま公民館で実施されている講座に来ていないお母さん方がおられるのではないかなと思います。そういった方はおそらく外から入ってこられた方で、ちょっと地域にはまだなじめていないという方の層がいるというのが想像されますが、どうですか。</p> |
| <p>B委員</p> | <p>プレイルームでも本当に積極的にお母さん方と交流される方もいらっしゃれば、スタッフにも声をかけてくれるなどというオーラを出されている方もいらっしゃったりと様々です。そういう方は、そっと見守っています。私達、支援の場としては運動会とか、なにかイベントを用意して来てもらうというのも、もちろんですが与えるばかりではなく、お母さん同士と一緒に何かしていこうという動きの支援もさせていただいています。運動会をして楽しかったから、自分達でサークル立ち上げて、自分達でもっと楽しいものを作っていこうという動きなどは遊具の貸し出しなどをして支援しています。もちろん毎回、行けるのも大事ですが、行ける場が無いからこそ、お母さん同士がつながる勉強といいますが、繋がることも学びながら、自分達が子どものために何ができるかっていうのを学んでもらうことも勉強だと思っています。そういう支援もあるので完全にすべて常設があるのがいいのかどうかということも、私達スタッフで話すことがあります。公民館へ市の事業で行くのが週1回あります。民生委員の方がされる子育てグループもありますし、地域の方の自主グループもあるので毎週1、2回は必ず公民館で子育てグループの活動ができています。自分でこのグループだったら入っていける、市の分であれば入っていけると、選んで</p> |

審 議 経 過

NO. 14

| | |
|-----|--|
| | <p>いただいて、お母さんが行かれたらいいことだと思っています。市の事業に参加することから始められて、新しいグループにも入っていかないと手を伸ばしておられる方もおられるので、そういうところで順番に見て行ってもらってもいいのかなと現場では思っています。</p> |
| C委員 | <p>なかなか、地域の中で、そこへ行くのもいやという人もいます。私は保育所で勤務していますが、土曜日と木曜日に園庭を一般開放していますが、そこに来られるお母さんとプレイルームに来られるお母さんはちょっと違って、やはりプレイルームに来られるお母さんっていうのは見てほしい、少し話も聞いてほしい雰囲気が出ている気がします。専門職員がいますので、お話すなかで園庭開放もやっているよと声を掛け、園庭開放にはかなりの人数が来られていますので、そのような方法というのはいいかなと思っています。</p> |
| 議長 | <p>いま、子育て支援の方に話が進んでしまっていますが、今年10月からの消費増税に伴いまして、幼児教育保育の無償化ということで、本市でもなんらかの動きがあると思いますが、ちなみに川西市の子育て支援に関するセクションは、どちらがご担当ですか。</p> |
| 事務局 | <p>教育委員会の中に2部ありまして、こちらは教育推進部ですが、もう1つのこども未来部というところが担当しています。</p> |
| 議長 | <p>本市では、教育委員会が両方所管されていますので、そういった意味で連携が強いと言えますね。どちらも市長部局が担当しているという場合もありますが、その部分の事業展開について政策としてなにかあるのですか。</p> |
| 事務局 | <p>川西公民館しか把握できていないですが、公民館の場所貸しという形でこども未来部のこども・若者ステーションの子育て支援のグループに対し、月複数回減免をしています。</p> |
| 議長 | <p>それは登録サークルですか。</p> |
| 事務局 | <p>登録サークルです。ただ、減免無しでやっておられるサークルもあります。</p> |
| 議長 | <p>川西公民館には、プレイルームがありますよね。</p> |
| 事務局 | <p>所管は公民館ではなく、子ども・若者ステーションです。</p> |
| 議長 | <p>公民館のエリアではないのですか。</p> |
| 事務局 | <p>同じ階でも公民館のエリアではないです。こども未来部のこども・若者ステーションという所管があり、その中にプレイルームがあります。</p> |

審 議 経 過

NO. 15

| | |
|-----|--|
| 議長 | 分かりました。 |
| D委員 | たぶん公民館でされている子育てグループは登録されている方がされているのだと思います。川西市に登録ではなく県民局に登録しておられます。川西市でも50あまりの子育てグループが登録されています。 |
| 議長 | 私が県で勤めていた時、子育てに関しても担当していたのですが、登録された団体が、県民局に登録しているか、してないかだと思います。県から回ってくるのではなく、市の方でグループを作られていて、県民局の子育て広場というところで登録をすると、育ちゃんの看板というのがくる事業のことだと思います。事実確認はできておりませんが、たぶんその事業かと思います。基本的には、サークルは市の中で作られたサークルさんが市に登録するか、県に登録するかというだけで、両方されているところもありますし、いないところもあります。 |
| B委員 | 補助金が出ていたりするのですか。 |
| 議長 | いや、補助金はないと思います。登録サークルに関して、川西市は補助金を出していますか。任意団体さんですから、県とか市から活動支援費が出ることはないと思います。 |
| 事務局 | 活動費の支援はないです。使用料の減免に留まっています。 |
| 議長 | ですよ。社会教育関係団体と同じですね。それでは時間がいい時間になってまいりましたが、あちらこちらに話がとんでしまって、議長の不手際で申し訳なかったのですが、他にご意見ある方はいらっしゃいますか。 |
| B委員 | すいません。先程教育長が講師の人材がなかなかないとおっしゃっていたのですが、学校地域本部事業など、たくさんボランティアの方が登録はしていただいているのですが、なかなか学校に繋げていけない状況があります。学校が何を求めておられるのかも、情報が届かないですし、何かお手伝いしたいという方はみなさん無償でという気持ちで登録はしたけど何も言ってもらえないと言われる方が多いので、もっと私達コーディネーターがうまくつなげればいいのかと思うのですが、そこをもうちょっと繋げられたら、子ども達にもっと活かせるのかなと思います。ただ反対にそういう話をちょっとお話したことがある教頭先生からは、地域の方が来られた際、子どもの態度が悪いと怒っただけで授業が終わったこともあるので、ボランティアの方の指導をちゃんとしてもらえるのですかと言われたこともありました。 |
| C委員 | そのあたりも地域との連携が必要ですね。こういう話があるのだけれど、どこかで活かせる場がないかということは、学校も忙しいのは確かですが、お互い話し合う機会を持てばなにかが進むのではないかと思います。これから部活 |

審 議 経 過

NO. 16

| | |
|------------|---|
| <p>議長</p> | <p>がなくなるなど、いろいろ変化が起こってくるのが予想されます。そういうところで、地域の力を活かせる場があったりするのではないかなと、そうふうにコミュニティの方に話があったと話だけは聞いたことがあります。</p> <p>学校地域協働本部のコーディネーターというのが、ここ10年ぐらいずっと課題となっています。マッチングをいかにしていくかということ、ボランティアさんの事前研修というところはずっと課題となっていることころですね。それでは最後、委員のみなさん、事務局からなにかありますか。なければ4の議題については終わらせていただきます。この後、本日委員のみなさまからいただきました意見をもとに中間提言をまとめさせていただきます、次回の社会教育委員の会にて中間提言案を出し、本年度の討議結果をまとめ、最終的な確認をしていきたいと思えます。それでは、次第の5その他ですが、委員のみなさまからなにかございますか。なければ、事務局より連絡事項をお願いします。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>次回の第6回社会教育委員の会ですが、平成31年3月12日(火)午前10時から市役所2階202会議室にて開催を予定しております。年度末のお忙しい時期ですが、ご出席いただきますようお願い申し上げます。</p> |
| <p>議長</p> | <p>それでは、これをもちまして、平成30年度第5回社会教育委員の会を閉会させていただきます。ありがとうございました。</p> |